

報 会

兵小長

第 160 号

令和5年2月28日
兵 庫 県
小 学 校 長 会

「兵庫は一つ」を実感して

兵庫県小学校長会長 亘 進 司

令和四年度兵庫県小学校長会の活動も残りわずかとなりました。今年度も絶えず感染症対策を気かけながらの取組でした。この一年間、校長会を支援していただきました校長会役員の皆様をはじめ、県内すべての校長先生方に心より感謝申し上げます。そして、いつも温かくご支援ご指導を賜りました県教委の皆様、本当にありがとうございます。本庁へ何うと、どの部署の方も仕事の手を一旦止め、立って挨拶を返してくださいませ。現場を大切にしてくださいませることを感じます。まさに「兵庫は一つ」を実感した瞬間でした。さて、本稿では今年度の主な活動を振り返り、まとめとします。

◆兵小長総会・研修会の三年ぶりの開催

令和二年度度明石市、令和三年度姫路市での開催は、感染症拡大防止のためやむを得ず中止となりました。今年度は、例年よりもより広い会場に変更したり、入場前の検温をしたりする等、感染防止対策を徹底し神戸市文化ホール大ホールに於いて開催することがで

きました。また、弁当業務の割愛による初の午後開催や、地区報告とパネルディスカッションの導入等、新しい取組にもチャレンジしました。効率的な時間短縮も好評を得ました。何より、久しぶりの集型の研修会は、臨場感があり、校長先生方の情熱を直に感じることができました。ここは、文字通り、「兵庫は一つ」です。今年度の取組を参考にし、一層の充実を図ってまいりたいと思います。

◆兵小研活動の充実

兵小研総務・会計・庶務の校長先生方をはじめ、各役員を担ってくださいました校長先生方、本当にありがとうございます。学校を取り巻く厳しい状況の中、工夫を凝らし、私たちの「学びを止めない」研修活動を展開してくださいませ。県内各地区の分担や負担軽減もかなり進んでいます。「研修」は私達の「生命線」です。各部長の校長先生を中心にこれからもよろしくお願ひします。

◆全連小との連携

兵庫県小学校長会長として、昨年度池田会長と今年度のわたくしの任期の二年間は、近畿ブロックの代表という立場で常任理事を務めさせていただきました。様々なアンケートや文書作成等のご協力をありがとうございました。その成果等々については理事・地区長や校長会事務局からのメール発信でお伝えさせていただきました。国に直接現場の声を届ける全連小の活動は、非常に重要です。「全連小要望活動」では、全連小、大字会長とともに常任理事たちで文科省へ出向き、要望書を手渡ししました。今年度は、文部審議官が直々に執務室に通してください少しの時間でしたが、懇談することもできました。生の声を届けることができましたことは大変よかったです。

◆県教委との教育懇談会

教育懇談会資料を文章で伝える従来の形ではなく、学校現場の課題を端的な項目として整理した上で、優先順位をつけて提示する、より分かりやすい形に変えました。昨年度からこの形で取り組んでいます。そして、限られた時間内でより一層、「懇談」をメインにしています。文面からではない、本音で懇談しあえる良い機会となっております。県教委の方々の確かな連携を感じました。

結びに、各地の感染者数等、社会情勢を鑑みて、教育活動を精一杯展開してきた令和四年度。結果的に実施できなかった取組があります。兵小長研究大会、兵小長宿泊研修、旧交会等々：子どもたちのよりよい教育のために素晴らしい取組が展開されていくことを願ひてやみません。
(神戸市立山の手小学校長)

兵小長活動記録(抄)

庶務部長 横 谷 義 秀

四・二二 理事・地区長会①

代表者会

五・六 教育懇談会準備委員会①

理事・地区長会②

合同委員会・各委員会

一二 兵小長総会・研修会

一三 近小協理事会①(和歌山)

二七 全連小総会・研修会

六・九 あり方検討委員会①

教育懇談会準備委員会②

一七 理事・地区長会③

教育懇談会準備委員会③

七・一三 私学連合会との連絡協議会

二二 近小協理事会②(和歌山)

八・一 教育懇談会準備委員会

二 近小協和歌山大会

一七 県教委との教育懇談会①

一八 理事・地区長会④

人給研修会

九・八 あり方検討委員会②

十・三 あり方検討委員会③

一四 全連小全国大会(鳥根・東京)

一九 兵小長研播磨東大会(中止)

二八 県教委との教育懇談会

理事・地区長会⑤

十・二六 近小協理事会③(和歌山)

一・一〇 活動方針作成委員会①

二三 活動方針作成委員会②

二七 理事・地区長会⑥

二・一〇 近小協理事会④(大阪)

二四 理事・地区長会⑦
(神戸市立千鳥が丘小学校長)

活動報告

この一年をふりかえって

経営委員会の活動報告

経営委員長 俵 原 正 仁

経営委員会は、五月の本部合同委員会から始まり、本年度は、本部経営委員だけでなく支部経営委員も集まり、フルメンバーで年間活動計画・具体的目標・研究大会等について協議を行いました。コロナ禍以前と変わらぬ従来通りのスタートを三年ぶりに切ることができました。

昨年度より東西隔年で開催することになった研究大会についても、会員が参集する対面での実施に向けて、西ブロックである播磨東地区の実行委員長、実行委員を中心に準備を進めていきました。そのような中、年度当初は、やや落ち着きを見せていた感染状況が、七月に一転しました。すでに、提案者等も決まり、提案趣旨の原稿も集まっていたのですが、新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大を鑑み、昨年度同様、対面での研究大会は「誌上発表」への変更となりました。

令和五年度の研究大会は「丹波大会」になります。来年度こそは、コロナ禍が収束し、大会が参集して開催できることを願っています。本年度は、大会の立案準備及び経営紀要の作成を西ブロックが担当し、研究紀要の校正を東ブロックが担当しました。ご尽力いただいた方々に深く感謝申し上げます。来年度も皆様のご支援・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

(芦屋市立山手小学校長)

人給委員会の活動報告

人給委員長 井 上 敏 雄

人給委員会は、教育条件の整備及び教職員の処遇改善を柱として、働きがいのある教育現場にしていくために全連小・近小協と連携を図りながら、各種調査・研究活動と人事給与等に関する研修活動に取り組んできました。

一 調査・研究活動

会員の皆様のご協力のもと、六月と十月の二回の調査を実施し、教職員の処遇や学校経営の状況を調査し、県教委との教育懇談会につなげました。また、近小協調査研究会において、人事給与等に関する情報交流に努め「調査研究第六十一集」の編集を行いました。さらに、全連小対策担当者連絡協議会では、学校における働き方改革の進捗状況やICT環境整備の進捗状況について、調査活動の結果をもとに現状や課題を交流し、協議を深めました。

二 研修活動

県教委のご協力を得て、八月に「教職員の給与や定年の引き上げに関する今後の動向」を中心に研修会を開催しました。三年ぶりに多くの校長先生方に参加していただき、有意義な研修活動ができました。

今後も、職責に見合った給与体系への改善や次代を担う管理職候補者の育成、誰もが管理職を目指しやすい環境整備等を目標に、人給委員会の活動を充実していく必要があります。

(姫路市立飾磨小学校長)

調査広報委員会の活動報告

調査広報委員長 梶 川 修 一

調査広報委員会は調査活動(独自アンケート等)と広報活動(広報誌等)を中心に取り組まれました。

独自アンケートでは、兵庫型学習システムの実施状況や教員不足等の詳しいデータが得られ、教育懇談会の際に数字の裏付けがある意見として役立てることができました。会報「兵小長」ではタイムリーな情報を発信でき、会員の方は「兵庫は一つ」の思いをさらに強めたことと思います。

一 兵小長関係

① 調査委員会独自アンケートを六月に実施し、その結果を教育懇談会準備委員会に提出しました。同時に各支部に結果をフィードバックし、課題の共有化を図りました。

② 会報「兵小長」第一五八号・第一五九号・第一六〇号を発行し、兵小長の活動状況をお伝えしました。

③ 兵小長ホームページの更新を行い各種情報を掲載しました。

④ 転学児童に関する文書を発出し、正確かつ迅速な情報交換を依頼しました。

二 全連小関係

① 「小学校時報」へ、五回寄稿を行いました。

兵庫の活動を広報しました。

(高砂市立米田西小学校長)

会員の声

地域・保護者との協働を目指して

神戸 廣谷 徹

本校では「できるときに・できる人が・できることを」をスローガンに地域・保護者・学校が協働で子どもを育む活動に取り組んでいます。その組織が、「だいち・大田学校応援団」です。神戸市では平成二十三年度から地域ぐるみで子どもたちを健やかに育てていくための取組として「神戸っ子応援団」の立ち上げを中学校区ごとに展開しました。だいち小学校では地域の方々を中心となつてその活動を継続してきました。そこに、令和三年四月よりPTAを解散し、保護者も応援団の一員として活動に参画するようになりました。

常時活動として、登校時の見守り、朝の読み聞かせ、図書館の本の整備、学校周辺の掃除などがあります。特色ある活動としては、放課後、希望児童に学習指導をする「てらこやだいち」があります。宿題やプリント学習をする子どもたちのサポートを地域の方々が指導員として行っています。また、イベントサポーターとして、運動会の会場管理、裁縫や調理実習の支援、町たんけんや秋見つけの見守り、昔遊びの支援、スポーツ活動の安全管理など、年々、サポート内容を増やしています。教職員だけで取り組むのではなく、地域・保護者のマンパワーも活用した学校運営をすすめる「地域と共に創る学校」を目指しています。

(神戸市立だいち小学校長)

兵 小 長

会員の
声

理想のコミュニティ・
スクールを目指して
阪神 山田 陽一

本校は昨年度に学校運営協議会を発
足し、今年度で二年目となります。

昨年度は、教職員や委嘱された協
議会委員をはじめ関係者全員が学校運営
協議会の目的、意義を理解しようと研
修を重ねながら、手探りで新しい取組
に飛びついていきました。

今年度は、学校運営協議会を本来の
姿である「学校の運営について協議す
る場」に軌道修正しつつ組織の整備・
研修・計画を心がけて進めています。

一年生への昔遊びの教授・二年生へ
の九九暗唱の補助、四年生へのキャリ
ア教育の講師探し等、各学年からの依
頼に対して必要な補助なのか、実現可
能か、ボランティアに負担をかけ過ぎ
ていないか等について熟議し実施して
いきました。

その結果、どの取組においても児童
に大きな教育的効果が現れました。ボ
ランティアに参加する方々にとっても
子どもたちの変容が実感でき、満足感
が得られる活動となりました。

これらの取組を継続させるために、
学校と地域とが密接につながることに、
学校運営協議会活動の全体像を教職員
の共通認識にすること、年間を通して
無理のない形・量を定めて実施してい
くことを確認しながら理想のコミュニ
ティ・スクールを目指していきます。

(猪名川町立松尾台小学校長)

会員の
声

主体的な学びを通して
播磨東 竹中 裕貴

未来を生きる子どもたちは、急激な
社会情勢の変化に主体的に対応し、判
断しながら、課題を解決していく力を
身に付けておくことが大切です。本校
では、「主体的に考え、自分の考えを
表現できる子の育成」を毎日できる授業
(見通し・表現・振り返り)を研究
主題とし、特に算数科において分かる
授業づくりの研究を進めています。

具体的には次の四点を柱に取り組ん
でいます。一つ目は、「算数科授業研
究の推進」です。年間六回の指導力向
上に向けた授業研究を計画・実施しま
した。本校は、全学年単学級ですので、
全学年で授業を行ったこととなります。

二つ目は、「学力向上の取組」です。
「家庭学習ががんばり週間」「読書週間」
を実施し、学力向上に努めています。

三つ目は、「ICT機器の活用」です。
情報教育担当教員を中心にその活用方
法等研修を重ね、成果をあげています。

四つ目は、「学級づくり」です。「対話
ができる温かい学級づくり」を目指し
て、学級の児童の実態を把握し、「学
級経営案」を計画・実践しています。
また、低・中・高学年部会で「学級経
営交流会」を実施し、学級経営力の向
上に努めています。

(多可町立八千代小学校長)

会員の
声

特色ある
教育活動の推進
西播磨 池田 達哉

高雄小学校のそばを流れる千種川。
秋には紅葉の赤、銀杏の黄、山々の緑
川面に映る夕日の色。ここ高雄では、
様々な色に包まれ、日本の原風景を思
い起こさせてくれる景色があります。

また、千種川の河川敷には、兵庫県版
レッドデータブックのランクAに認定
されたハマウツボが群生しています。

本校は学校運営協議会のあるコミュニ
ティ・スクールです。そして、地域の
学習ボランティアが様々な学習活動に
協力してくれています。

ハマウツボは、六年生が総合的な学
習の時間に探求課題として、学習に取
り組んでいます。この貴重な題材を活
用し、四月から体長調査、五月には観
察会と個体数調査を実施し、十二月に
芝はぎ作業、二月には五年生に向けた
引継ぎ会と、一年をかけて学習してい
ます。

この学習を通して、ふるさと高雄を
思う心、環境を守る心、算数的・理科
的見地からの考察、引継ぎ会に向けた
プレゼンソフトを活用する力や発表す
る力まで、横断的・総合的な学習を展
開しています。

今後も、地域の自然や歴史、伝統文
化を大切に、保護者や地域の人々と
心のふれあいをはかり、学校運営協議
会の協力を得ながら、「特色ある教育
活動」を推進していこうと考えていま
す。

(赤穂市立高雄小学校長)

会員の
声

ふるさとを誇りに思う
児童を育てる
但馬 西川 充洋

「田鶴育む森井山」これは本校の校
歌の三番の歌詞です。本校では、早春
から秋まで校舎の周りの水田でえさを
ついでむコウノトリの姿が見られ、校
舎から見える稗塔では、ひなの様子も
見ることが出来ます。

今年度、本校では市のふるさと教育
の指定を受け、取り組んできました。
縦割り班による、地域探検を兼ねた遠
足から始まり、総合的な学習の時間を
活用して学年ごとにコウノトリや産業、
ジオパークなどテーマを決めて学習を
進めてきました。

その中で、地域の方々との交流が子
どもたちの学びに大きな力となってい
ることを感じました。地域の方々が子
どもたちと一緒に活動をすることで、
児童はその方々の思いに触れることが
出来ます。ICTが発達し、検索すれ
ばすぐに調べられる時代でも、本物に
触れることに勝る学びはないと実感で
きました。今回の学習でより小坂(お
さか)の地を好きになった児童が多く
なったのではないかと思います。

但馬の子どもは、故郷を離れる機会
が訪れることがあると思います。その
時に、故郷を誇りに思うことができる
児童の育成が大切だと考えます。故郷
の未来のために自分に何が出来るかを
考えられる児童を育てるためにこれか
らも努力していきたいと思えます。

(豊岡市立小坂小学校長)

神戸地区だより

神戸地区長 奥村富三

神戸地区小学校長会は、十支部（東灘、灘、中央、兵庫、北、北神、長田、須磨、垂水、西）百六十六校で構成されています。活動目標を「子供第一主義」信頼される学校づくりとともに進める」と定め、ウィズコロナや業務改善をはじめ様々な教育課題が山積する中、子供たちの健やかな成長を願って挑戦し続ける校長会をめざして活動してきました。

今年度は、二つの重点目標を掲げ、①「新時代をひらく学校づくり」の具現化のために、主体的・対話的で深い学びの実現、教科担任制の推進、GIGAスクール構想の推進、神戸市立小

播磨東地区だより

播磨東地区長 長井佐智夫

播磨東地区小学校長会は、三市二町の東播磨地区と五市一町の北播磨地区からなる十支部、百三十二校（義務教育学校一校）で構成されています。

本年度も新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、過去二年間と同様に地区総会・研修会を中止し、書面にて審議と採決を行いました。総会に代わる第一回幹事・役員会と地区対策委員会を四月に参集型で開催し、支部間のつながりを強化することができました。

また本年度は、当地区が担当する兵小長研究大会（西地区）開催に向けて、実行委員会を組織し準備を進めてまい

学校教育実践研修の充実、社会に開かれた教育課程の実現、などに取り組んできました。

②「安全安心で信頼される学校づくり」の具現化のために、いじめ防止・不登校対策の徹底、新型コロナウイルス感染症防止策の徹底、学校における働き方改革の推進、不祥事やハラスメント等の根絶、などにも力を入れています。今年度五月には、兵小長総会・研修会を神戸にて三年ぶりに参集型で開催することができました。顔を合わせて話したり聴いたりすることの良さを改めて感じ、「兵庫は一つ」であることを再認識する有意義な大会となったことに心より感謝申し上げます。（神戸市立向洋小学校長）

地区の動き

りましたが、新型コロナウイルスの感染症の感染状況を鑑み、やむなく誌上発表へ変更させていただきました。

当地区は特に南北に広く各支部の環境も様々であるだけに、隔月に開催する幹事・役員会における情報共有により、新たな視点を獲得することができました。タブレット活用を含めた学習指導学校行事の実施、コロナ対応、人事や施設面等、学校運営に大いに参考となりました。地区の課題としては、複数の市町で学校再編等の計画や検討が進められておりますので、状況に応じて地区内の体制を見直すことも考えていく必要があります。

今後も地区内の密接な連携を進め、学校運営の充実に努めてまいります。（明石市立明石小学校長）

西播磨地区だより

西播磨地区長 金元重幸

西播磨地区小学校長会は、たつの市・太子町・播磨高原広域事務組合（二十校）、相生市（七校）、赤穂市（十校）、上郡町（三校）、佐用町（四校）、宍粟市（十一校）の六支部五十六校で構成されています。毎年のように学校の統廃合が進み、この十年で学校数は十四校減、学級数は八十三学級が減となり、単学級編成の学校が半数以上となっております。今後も統廃合は予定されており、合わせて小中一貫教育への取組が各市町で強化されています。

本年度は、三年ぶりに全員参集しての総会・研修会を実施しました。やは

編集後記

広報部長 霧嶋敦志

本年度の最終の会報、一六〇号を会員の皆様にお届けすることになりました。今号では、亘会長、横谷庶務部長そして、三委員会の委員長の皆様と一緒に振り返っていただいております。

亘会長には、今年度の取組をまとめていただくとともに、これからの兵小長の進むべき姿を示していただきました。また、【地区の動き】では、神戸・播磨東・西播磨の三地区から記事をお願いしました。それぞれの地区における教育課題に対してどのように取り組んでいこうとしているのかがよく分かりました。そして、【会員の声】には、五地区から、主体的な学びを目指した

り同じ空間でその雰囲気共有し、顔を見て言葉を交わし合ってこそ、よく分かりあえつながりが深まることを実感しました。研修会では佐用町の水害復興に携われた久保正彦様に講演していただきました。ビルド・バック・ベターという言葉があります。よりよい復興という意味ですが、水害からの復興も、コロナ禍からの今後の学校教育も、「元に戻す」というよりもよりよいものにしていく必要があります。西播磨地区のよりよい学校改革につながるよう、情報を共有し知恵を出し合いながら、ともに進んでいく校長会組織となるよう組織の充実と活性化に努めていきます。（佐用町立佐用小学校長）

学校運営の工夫や学校運営協議会と一体となった学校運営の工夫が寄せられました。学校の周囲の環境や地域力を活かした各学校の取組を興味深く読ませていただきました。

本年度は、「三年ぶりの〇〇」という言葉がよく聞かれ、寄稿いただいた内容にも、コロナ禍にありながら、新たな形を模索する各地区や各校の奮闘ぶりがよく表れていたように感じます。また、様々な場面で、「兵庫は一つ」ということを再確認できたように感じます。

最後になりましたが、お忙しい中、快く執筆を引き受けてくださった皆様に感謝申し上げます。（神戸市立蘆谷小学校長）